

留学先大学：ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院(SOAS)
 留学先での所属学部・研究科：Faculty of Arts and Humanities
 留学先での在籍身分：Japanese Exchange Student
 留学期間：2015年8月～2016年6月
 神戸大学での所属学部・研究科：国際文化学部
 学年（出発時）：3年
 本報告書記入日：2015年10月18日

出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

過去の先輩の留学近況報告書（留学生センター）

住居について

- ・住居のタイプ：大学寮 アパート ホストファミリー その他（具体的に）_____
- 住居（寮，アパート）の名前：Dinwiddy House
- ・部屋の種類：一人部屋 二人部屋 その他（具体的に）一人部屋+キッチン共用
- ・ルームメイト：現地学生 留学生（出身国：_____） その他（具体的に）_____
- ・どのように探しましたか。：大学の斡旋 自分で探した その他（具体的に）_____
- ・大学までの通学時間・手段：徒歩3分or徒歩20分
- ・住居の周りの環境はどうですか。：

最寄りの駅やバス停も近く、飲食店やスーパーも多数あります。非常に便利な場所です。

- ・毎日の食事はどうしていますか。：

物価が高いので自炊をこころがけています。大学の近くには（ロンドンでは）安い店もあるので利用しています。

- ・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつかりましたか。トラブルはありませんでしたか。：

渡航前に予約、支払いは完了しました。トラブルも特にありませんでした。

大学の授業について

1. 履修登録について

- ・履修登録の時期：出発前 到着後
- ・履修登録の方法：On-line International Office等の仲介 その他（具体的に）_____
- ・登録時に留学生として優先・配慮されることはありましたか。：無し 有り
- ・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

学部生(UG)対象講座であれば、すべての学部・学科から自由に選べる点は優遇されています。登録が先着順であることは正規生と変わりません。Full Term(1~3)で留学する生徒は正規生と同様の基準で成績をつけられます。

- ・希望通りの授業が履修できましたか。：はい いいえ
- ・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

Anthropology of Travel and Tourismが今年にはUG向けには開講されず、MA向けのみでした。同じ教授による他の講座はあるようですが、隔年(?)で少しばかり開講講座は変わるそうです。

2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも 含めて教えてください。
1	Introduction to Social Anthropology	Marloes Janson	3	1.0	70	Lecture+Seminar リーディングが多いです
2	Voice and Place	オムニバス (人類学科)	3	1.0	40	Lecture+Seminar リーディングは多いです
3	Principle of Social Investigation	Gabriele vom Bruck	2	0.5	10	Lecture+Seminar リーディングが非常に多いです。
4	Globalization of Anthropology	Naomi Leite	2	0.5	?	Lecture+Seminar TERM2の授業なので様子はわかり
5	Introduction to Development Studies	Feyzi Ismail	3	1.0	80	Lecture+Seminar リーディングが多いです。
6	Grammar Improvement	Christle Huntington- Goodall	2	なし	10	課題は基本的にありません。復習 が大切だと思います。
7						
8						
9						
10						

3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

人類学の授業を主に受講していますが、非常にレベルが高く課題が多い印象です。英語力不足により聞き逃してしまうことがありますが、たとえ理解できていても発言するのが非常に難しいほどに、リーディングに基づいた、内容が濃く情報量の多いディスカッションがなされています。私の講座は成績評価は、Essay 2つ(20%×2)と期末試験(60%)の形式が多いですが、学部学科によって異なるそうです。

一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00							
9:00			LECTURE(2 H)				
10:00	LECTURE (2H)			SEMINAR(2 H)	SEMINAR(1 H)		
11:00							
12:00							
13:00					SEMINAR(1 H)		
14:00					SEMINAR(1 H)		
15:00					SEMINAR(1 H)		
16:00	LECTURE(1 h)	JAPAN- CONVERSA TION (45MIN)			LECTURE(2 H)		
17:00							
18:00	SEMINAR(1 H)						
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							

現在までの感想 自由に記入してください。（800字～）

私は、8月末～9月中旬の4週間の語学コースに参加したのちに、9月末からはMain Academic Courseに参加しています。語学コース、通常の授業、生活面の三点に分けて書きたいと思います。

まず語学コースについてですが、非常に中身の詰まった、学びを強いる講座でした。英国の大学が求めるEssayの書き方やPresentationについて細かくかつ厳しく指導されました。特にEssayについては文章構成から文法に至るまで徹底的に教わり、日本で作成していたレポートとはまるで違う質と基準に沿うために、多くの課題と自習をこなし続けました。教員の添削は非常に丁寧で為になり、全てに応えていくのが大変でしたが、非常に有意義でした。語学コースが終了しても、9月以降も、通常授業とは別にIn-Sessional Courseというものを希望すれば無料で受けることができます。私は文法のコースを受けていますが、基礎から立ち直り根本から直していく内容で充実しています。

Main Courseはまだ始まって3週間ではありますが、Lecture/Seminarのレベルの高さ、課題readingの多さがやはり圧倒的であるという印象です。教授はもちろん学生にも熱心な人が非常に多い為、Lecture/Seminarに参加するためには、英語力に遅れをとることやreadingが膨大であることに言い訳にできません。（現地学生と成績評価は同じです。）留学以前より様々な方々から大変だと聞いていましたが、いざ挑んでみて改めて、自分の甘さ・努力の必要性を見せつけられている思いです。しかし、大変で辛いばかりでもなく、授業内容そのものや議論の深まりが非常に興味深く楽しいのも事実です。神戸では知らなかったような視点、知識、思考に触れられるため、興味の幅も深さも同時に広がっています。すでに遅れをとっていることは明白ですが、前週よりも成長していく気持ちでこれからも励もうと強く思います。

学問以外の生活面や健康面については今のところ問題ありません。大学や寮の近辺は生活のしやすい環境と言えます。大学の隣に大英博物館があるため、膨大なコレクションをいつでも見に行くことができることが非常に幸せです。また、大学を含めロンドンでは、多様な文化イベント・ワークショップ・講演が数え切れないほど開催されていることも大きな魅力だと思います。友人関係もまずまずといったところです。寮のフラットメイト（イギリス人・スペイン人）も友好的で、時に楽しく時に真面目な話をするのが楽しいです。授業でなかなか（ネイティブの）友人を作れないことが悩みではありますが、徐々に授業に追いつきながら積極的に話していきたいと思います。

学問と文化体験にメリハリをつけながら、少しでもLecture/Seminarで成果を出せるように努力を重ねていきたいと思います。